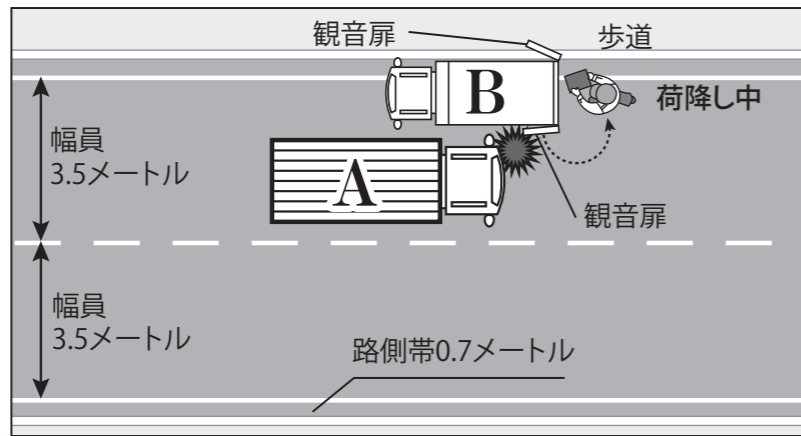


# 職場における交通安全指導

Part 114

## 右側駐車した荷下ろし中の中型トラックに接触



### ■事故の概要

#### ●事故の当事者

当事者A：運転者（大型貨物車）  
40歳代、男性

当事者B：被害者（中型貨物車運転者）  
50歳代、男性

#### ●被害状況

A：左前部ミラー及びステー破損  
B：重傷（左側頭部頭蓋骨骨折、脳挫傷）

#### ●道路状況

工業団地内の直線道路（県道）

### 事故状況

大型トラックの乗務経験が20年のAは、事故なしの優良ドライバーである。

事故の当日は、配送先への到着予定時間が午前7時のため、時間に遅れないよう余裕を持って午前4時に会社を出発した。首都高から東北自動車道を利用し、渋滞もなくスムーズであったため、予定時間より少し早めの午前6時頃に配送先近くの工業団地内県道に到着した。

Aは、ここまでスムーズに走行し配送先の付近まで到着していたことで、安心と若干の眠気がある状態で運転していた。しばらく直線道路を走行していると前方に駐車した中型トラックが視界に入ってきたが、ハザードの点灯がなく、ドライバーが乗っていない駐車車両だと思い特に気に留めることなく進行していた。

トラックに近づいた時、助手席に置いた携帯電話の呼出音が鳴り、つい気を取られたため、やや左に寄ってしまい駐車していたトラック後部に接触した。

Aはトラックの先に自車を停車させ駆け寄ると、50歳くらいの男性Bが後頭部の左側から血を流して倒れていた。Aは急いで119番し、Bは救急搬送された。

Bは、A車が接触した際に荷降し作業をしており、B車トラック後部の観音開き扉がはじかれて左側頭部に衝突し強打、左側頭部頭蓋骨骨折及び脳挫傷の重傷であった。

### 事故の原因

事故の現場は、工業団地内の片側一車線の県道で、交通量もさほど多くはなかった。

Aの心理的要因としては、配送先の付近である事故現場まではスムーズに走行して来ることが

き、配送先への到着時間まで1時間あることと、出発が午前4時と朝早かったことによりやや眠気があることなどから、漫然運転の状態で行っていた。左前方に右側駐車をしたBのトラックに近づいた際、助手席に置いた携帯電話の呼出音が鳴ったことで気を取られ脇見運転となり、事故を惹き起こしてしまった。

### 安全指導

今回のケースは、駐車車両への接触事故が引き金となった人身事故です。

接触事故の原因には、前方不注視や死角等への確認不足、すれ違い時の操作ミスによる接触など、ちょっとした注意不足によるものがあげられます。これらは特に漫然運転時に起こりやすいため、注意が必要です。

漫然運転にともなう事故の防止についてまとめました。

### 「漫然運転」による事故防止

漫然運転は、ぼんやり考え事をしながら運転しているため、顔は前方を見ているのに頭はボーっとしており、他の車や歩行者に気づかず、交通事故の原因になることがあります。

#### ①「進路変更時」の注意

進路変更時は、余裕をもって進路変更ができるよう、進行先にある車両との距離の確保に努めましょう。また、対向車両が来たことにより、進路変更を取り止める事も念頭におき、前方の道路状況を把握するため、コメンタリー運転を実施するなど安全確認を徹底しましょう。

#### ②「側方通過時」の注意

駐車車両の側方を通過する場合、ドアが急に開いたり、自転車の場合はよろけたり、急な進路変更などがあるため、不足の事態に対応できるよう、自分がいつも空けている以上の間隔を確保するよう意識を持って、注意喚起に努めましょう。

#### ③「狭いわき道などでのすれ違い時」の注意

住宅街等の狭いわき道での対向車とのすれ違

いは、自分の車幅を考慮し、ミラーのでっぱりにも十分注意が必要です。

また、なるべく幅員の狭い道路には極力入らないようにしましょう。

#### ④「携帯電話やスマホは厳禁」

今回、運転中に電話が鳴って気を取られたことも原因の一つといえます。漫然運転時に電話が鳴ると、驚いたり、気を取られたりしてハンドル操作を誤ることもあります。また、漫然運転でない時でも、電話が鳴り続ければ、気になってしまい注意不足になる恐れがあります。運転中は音が鳴らない設定にし、体から離してバッグやグローブボックスなどに収納するなど、常に運転に集中できるよう努めましょう。

トラックの運転者が、運転中は他のことを考えずに運転のみに集中することは理想かもしれませんが、それに近い最善の策としては、運転中は声を出して直接自分の脳に訴える方法があります。脳は目から得た情報を判断して整理・伝達することよりも、声による耳からの情報の方がより早く、また、漫然に陥らずに正確に伝わるといわれています。

国交省も推進しているコメンタリー運転は、目から得た情報を声に出してコメント（呼称）しながら判断する方法、例えば「左前方に自転車を認めた場合、『左』『自転車』『停止』と自分に注意を促しながら減速し、安全確認ができたなら『よし』と呼称して走行を再開する」などの方法が最適です。

是非皆さんも率先してコメンタリー運転を実践してください。必ずヒューマンエラーとヒヤリ・ハットの間が激減します。

